



●県営農地整備事業により大区画化した農地で作付けが始まりました

○迫第四地区（栗原市瀬峰・大崎市田尻）

農地整備事業「迫第四地区」は、平成30年度に発注した区画整理工事（※1）が完了し、工事によって整備された農地で水稻の作付けが始まっています。

今後は地区内全ての大区画化した農地で暗渠排水工事（※2）を行い、農作業効率の更なる向上を図ってまいります。

※1 農作業効率の向上を目的に、ほ場の大区画化や耕作道路、用排水路の整備を総合的に行う工事

※2 ほ場の地下排水能力の向上を目的に、ほ場の地下に排水管を埋設する工事



取水が始まる農地（R元.5月）

○沼田・八木地区（栗原市若柳）



田植えの進む水田

平成29年度から区画整理工事を進めている「沼田・八木地区」は、平成30年度の工事で全区域の区画整理工事が完了し、4～5月に田植え作業が行われました。

区画整理工事では、農地の大区画化による農作業機械の作業効率の向上、用水のパイプライン化による水管理の省略化を図りました。全区画の区画整理工事は完了しましたが、事業完了まで、地域の皆様の抱えている問題を少しでも解決し、使いやすい農地とできるよう取り組んでまいります。

○大目地区（栗原市若柳）

農地整備事業「大目地区」では、平成30年度から今年度の春にかけて、地区内で最初の工区となる「大目3-1工区」の区画整理工事を実施しました。

新たに整備された大区画農地では、飼料用米の作付けが始まっています。

工事は地域の皆様のご協力のもとスムーズに進み、無事完成を迎えることができました。大目地区では今年度以降も区画整理工事を順次進めてまいります。



大目3-1工区 工事完了後の様子

●金成有壁地区で、初めて「酒米の田植えボランティア」が行われました！

当部は、中山間地域等の農村集落の活性化を図ることを目的に、農作業のお手伝いをする「援農ボランティア」や都市と農村との交流を行う組織の実施体制づくりを支援しています。

令和元年5月26日（日）、栗原市金成有壁地区で「酒米の田植えボランティア」が行われました。この取り組みは地元の有壁農地整備推進委員会が中心となって企画したもので、栗原市・一関市から一般市民や小・中学生など31人がボランティアとして参加しました。当部はNPO法人あぐりねっと21と連携して、地元農家とボランティアの参加者との調整役という立場でこの取り組みを支援しました。

有壁地区は宿場町として栄えた歴史のある地区ですが、農地は急傾斜で農作業に多大な労力を要してきました。また少子高齢化が進んでおり、地域のつながりの維持が課題となっていました。

そこで有壁農地整備推進委員会は地元の萩野酒造と連携し、地区の酒米を使った酒造りによって地域の活性化を図ろうと、今回初めて援農ボランティアの受け入れに取り組みました。

ボランティアの参加者は2班に分かれて、交代で手植え作業と機械植え作業を手伝いました。真夏のような暑さでしたが、手植え・機械植え作業ともに和気あいあいとした雰囲気の中で行われ、参加者からは「初めて田植えのお手伝いできて楽しかった」「自分で植えたお米からお酒が生まれると思うと、とても楽しみ。また来たい」という感想をいただくことができました。

有壁地区では、秋の稲刈り作業についても「援農ボランティア」を実施する予定としています。当部は、今後も栗原市内における農村集落の活性化に向けて積極的に支援してまいります。



手植え作業のボランティア



機械植え作業のボランティア

●多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」で「ほたるまつり」が開催されました！

令和元年6月29日（土）、栗原市志波姫八樟^{やつくぬぎ}地内で、多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」による「ほたるまつり」が開催されました。この行事は、組織で保全するヘイケボタルの復活を祝うため昨年度から始まったもので、今年で2回目の開催となります。当日は構成員や地区の子どもたち、栗原市立志波姫小学校の児童や保護者も参加し、総勢約150人による大盛況となりました。

この日はあいにくの雨で、予定していたホタルの放虫や鑑賞会はできませんでしたが、講師として招かれた「NPO ホタルの会」理事の兵庫淑子先生からホタルの生態や育て方などについて詳しく解説していただいたほか、先生の持参したゲンジボタルの幼虫と実際にふれあう時間が設けられており、参加者は楽しみながらホタルへの理解を深めることができた様子でした。



当日の様子



●高収益作物導入に向けた現地見学会を開催しました

県は、農地整備事業の実施と併せ、高収益作物の導入を推進しています。栗原市内では、多くの地区で農地の大区画化や用排水施設の整備が進んでいるものの、稲作を主体とする担い手が多く、高収益作物の導入をどう進めるかが課題となっていました。

そこで、担い手や関係機関を対象に、令和元年6月20日（木）、高収益作物のひとつである加工業務用ばれいしょ（ジャガイモ）を2.3ha導入している栗原市金成津久毛地区で、「高収益作物導入に向けた現地研修会」を開催しました。

15人が参加した現地研修会では、講師と生産者から栽培過程や排水対策等の今後の作業について説明があり、参加者からは「加工業務用ばれいしょにはとても興味があり、今回の収量によっては今後の取組を前向きに検討したい」という意見も上がりました。



津久毛地区の加工業務用ばれいしょ作付け農地（開花時期）

当地区の加工業務用ばれいしょの収穫作業は8月上中旬に予定されており、栗原市内では初めての取組ということもあって、その収量や品質が注目されています。

当部は、今後も管内の農地整備地区における高収益作物の導入に向けた支援を関係機関と連携して行っていきます。

●栗駒ダム堆積土砂の浚渫作業が完了しました（沼倉2期地区）

農村地域防災減災事業（ため池整備）「沼倉2期地区」では、栗駒ダムの取水施設の更新のほか、ダムに堆積した土砂が貯水容量や取水機能に影響を及ぼさないよう、取水塔周辺部に堆積した土砂を取り除く浚渫作業を進めてきました。

浚渫作業は平成28年度に着手し、平成30年度までに約15,000m³の土砂をダムの底から取り除く作業が完了しました。取り除いた土砂の一部は再利用される計画で、受け入れ地への搬出作業は今年度の工事をもって完了する予定です。



●農地整備事業「芋塚地区」の権利者会議を開催しました

平成31年3月19日、栗原文化会館（栗原市築館）において、農地整備事業「芋塚地区」の権利者会議を開催しました。

芋塚地区は稲作を主体とする優良な水田地帯ですが、これまで農地整備は未実施の地域でした。そのため、水路は用排兼用で水はけが悪い上、農道は狭小で大型農業機械が進入できず、農業経営の近代化や省力化に支障を来していました。そこで、これらの阻害要因を排除し、近代的な営農を可能とするほ場を整備するため、平成13年度に農地整備事業芋塚地区として採択され、平成30年度に事業を完了しました。

当日は総権利者数70人のうち63人（書面議決書による出席を含む）が出席し、出席者の2/3以上の賛成により換地計画は可決されました。

芋塚地区の権利者会議開催のためにご尽力いただきました換地委員の方々や関係者の皆様方に、この場をお借りしまして感謝を申し上げます。



権利者会議の様子

発行：北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1

TEL 0228-22-2111（代表） / FAX 0228-22-9284

URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/>